

1. 評価結果概要表

作成日 平成21年2月13日

【評価実施概要】

事業所番号	1270500398
法人名	延寿グループ株式会社
事業所名	アット・ホームケアあすみが丘
所在地	千葉県千葉市緑区あすみが丘9-55-5 (電話) 043-205-1912

評価機関名	特定非営利活動法人コミュニティケア研究所		
所在地	千葉県千葉市中央区千葉4-4千葉県労働者福祉センター5階		
訪問調査日	平成21年2月10日	評価確定日	3月31日

【情報提供票より】(21年1月26日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成14年9月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	22 人	常勤 6人, 非常勤 16人, 常勤換算 11.7 人	

(2) 建物概要

建物構造	重量鉄骨ALC造り		
	2階建ての	1階 ~	2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000円	その他	光熱水費27,000円, 理美容・おむつ代・医療費は実費	
保証金の有無 (入居一時金含む)	100,000円	有りの場合 償却の有無	有り(24ヶ月で均等償却)	
食材料費	朝食	450 円	昼食	450 円
	夕食	550 円	おやつ	円
		または1日当たり 1,450円		1ヶ月当たり 43,500円

(4) 利用者の概要(1月26日現在)

利用者人数	16 名	男性	6 名	女性	10 名
要介護1	3 名	要介護2	5 名		
要介護3	3 名	要介護4	4 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 86 歳	最低	69 歳	最高	102 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	千葉中央メディカルセンター 福元クリニック
---------	-----------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

アット・ホームケアあすみが丘は静かな住宅地にあり、自然に恵まれた環境にある2階建、2ユニットのグループホームである。名前の由来でもある家庭的な(アットホーム)雰囲気の中で、入居者ができる限り自立して生活できるように支援している。同法人は県内に4つのグループホームを運営し、ホーム長会議を中心に情報共有し、職員が自ら気づく機会を現場で提供できるように工夫するなど、現場主体で、職員参加型の運営を行っている。職員は、入居者と共に生活の場を創り上げ、「笑顔でより添う 明るい介護」を自然に実践している。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価での主な改善課題は、ホーム独自の理念構築と鍵をかけないケアなどであった。これらの改善課題について全職員で検討し、難易度や重要度から優先順位をつけて改善に取り組んでいる。ホーム独自の理念は職員参加型で作上げた。鍵をかけないケアも職員の見守りと所在確認によって実現できるようになった。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価は管理者が中心に行い、職員に意見を聞きながら自己評価に取り組んでいる。今後は各項目の意味の理解やホームの課題を客観的に把握するプロセスとして、職員も自己評価に参加するなどの工夫が必要かと思われる。職員の視点を把握したり、客観的な視点やマネジメントの知識を得ることで、職員と相互理解が促されることもある。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	運営推進会議は6ヶ月に1回行なわれている。主な討議内容はホームの状況、防災訓練、身体拘束、外部評価の意義や結果などの説明や報告を行い、参加者からの意見をホームの運営に活かしている。今年度2回実施され、3月の実施予定を含めると年3回の実施となる予定である。今後は、参加者の参加率を高め、効率的で効果的な会議の運営を進めるためにも、年間計画を立てて、参加者の役割などを事前に伝達できるかどうかが課題として上げられる。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	職員は、家族からの意見や要望が出やすいようなホームの雰囲気づくりに配慮している。家族の訪問時や電話等で、意見や要望を良く聞くようにしている。意見や要望があればそれを受けられるように職員同士で話し合い、改善に取り組んでいる。その改善策や今後の取り組みについてはその都度家族に報告している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	買い物や散歩時には挨拶をし、ホームで飼っている犬の散歩や、近所の子供が遊びに来る等をきっかけとして親交を深めている。ボランティアの受け入れ、小学校や中学校との連携など、できることから理解してくれる人から、少しずつ地域交流を深めている。入居者の徘徊やホームの防災時連携も含めて、地域と良好な関係を構築したいと考えている。

## 2. 評価結果 ( 詳細 )

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印 )	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人理念とは別にホームの理念を職員と共に創り上げている。ホームの理念は「笑顔でより添う 明るい介護」とし、入居者生活の場であることを意識し、地域密着型の理念を掲げている。		
	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	日々の生活の中で理念を共有し、理念に基づくケアが実践できるように管理者と職員は常にコミュニケーションを取っている。理念の意味を分かりやすく伝えることで、職員一人ひとりが「地域の中で生活する入居者」という意識を持って支援することにつなげている。		
2. 地域との支えあい					
	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	分かりやすいホーム独自の理念は、地域との交流時にも拠り所となっている。自治会に入会し、回覧等も回ってきている。近隣の小学校や中学校のボランティア、生活科の授業としての施設見学に来てもらうなど、積極的な交流を受け入れている。管理者は今後も一層、地域との交流を積極的に進めたいと考えている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価結果は常に誰でも閲覧できるように玄関に掲示してある。また、評価の意義や改善項目は運営推進会議をはじめとして各会議で報告し、職員から意見を求めることで全員参加型の運営を心がけているが、自己評価は管理者が行っているのが実態である。		管理者は評価の意義を理解し、全員参加型の運営を行いたいと考えているが、現場が多忙であるということ、評価項目に対する説明等がまだ十分ではないので、ミーティング時に出た意見を反映して自己評価を行っている。今後は職員が自己評価に取り組めるような機会を提供し、職員とともにサービスの質の向上のための現状を認識し、課題解決の計画や優先順位を検討することが期待される。
	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は今年度2回実施され、3月の予定を含めると年3回の実施となる。内容は、ホームの状況、防災訓練、身体拘束、外部評価の意義や結果などの説明や報告を行い、参加者からの意見をホームの運営に活かしている。参加者の参加率を高め、効率的で効果的な会議の運営を進めることができると、なお良いと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	グループホームにおける困難事例や介護保険の利用方法及び利用者の状況などを含めて、市担当者に相談している。地域のグループホームの会合などに市担当者を招き、グループホームの状況を話し合う機会を設けている。生活介護の保護士や包括支援センターとの連絡はその都度密に行っている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	定期的には、月1回、健康状態、ホームの状況、入居者の様子などを郵送によって報告している。個々に対応すべき内容については家族の訪問時や電話、郵送等で個人情報に配慮して適切に行われている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が訪問しやすいような雰囲気づくりをし、定期的に訪問を呼びかけている。その都度、入居者や家族に合わせた形で電話等でも意見や要望を聞くようにしている。家族の訪問時を大切な機会と捉え、意見や要望があればそれを受けられるように職員で話し合い、改善に取り組んでいる。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	現在、職員の離職および異動は少ないが、離職や異動等がある場合は事前に入居者の精神的なダメージを最小にする配慮をしている。職員の採用時から長期に勤めてもらえることを前提にしている。職員は主婦が多く、アットホームな雰囲気作りや食事の準備など職員間の連携も良く、入居者との関係も良い状況である。この連携や雰囲気が離職や異動が少ない理由であると考えられる。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時のオリエンテーションや6ヶ月に1度の定期的な人事考課などにより法人内研修を行っている。また外部研修を積極的に受ける機会を提供している。職員間の連携や職員一人ひとりの能力を活かした役割設定など、組織活性化の面では優れている。しかし、職員のレベルに合わせた計画的な人材育成がなされていない部分も見受けられる。		ホームの家庭的な雰囲気の中で職員が働きながら学ぶ姿勢や組織体質はすぐれているが、計画的に職員のレベルに合わせた人材育成が実施されていない部分も見受けられる。人事考課の結果により不足した知識や経験を抽出し、管理者と職員が納得した上で、それを習得する機会(ケアや業務)を計画的に実施するなど、人事考課と人材育成が連動する仕組みがあると更に効果的だと思われる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域にある他のグループホームの見学を行ったりして交流を深めている。今後も引き続き、見学などを行ってサービスの質の向上に取り組もうと考えている。同法人は4つのグループホームを運営し、ホーム長会議や職員の交流等で、民家改修型と新築ホームなど違った設備、形態、運営方法について情報を共有している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前にはホームを見学し、ホームの雰囲気をしたり、職員との交流を図るようにしている。体験入居も1週間から2週間程度可能で、本人と家族が納得して、安心して入居できる配慮をしている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	家庭的な雰囲気の中で、入居者が安心して、可能な限り自立して生活できるように、見守りながら、支援している。そして職員は、生活の中で起る様々な出来事を楽しむ気持ちを入居者と共有しており、入居者から学ぶことも多い。		
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	一人ひとりから地元のことや、昔の話など含め日々の会話の中で思いや、暮らし方、意向の把握に努めている。家族の話も参考にし、普段の動作、表情からも推測するようにしている。その内容は職員の間で共有しホームでの運営に活かしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	日頃より本人、家族の希望の把握に努めている。又、定期的実施される職員会議では活発な意見が出されており、これらも介護計画に反映している。全ての関係者が内容を共有し、納得の上で実務に当たることが出来ている。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画は3ヵ月ごとに作成しているが、本人に変化などが生じた場合、その都度、家族やスタッフなど関係者と話し合い、新たな計画書を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急入居希望があった場合など、関係する4つのグループホーム間でやりくりし、極力対応している。遠方の家族のホーム訪問については食事、入浴、宿泊にも対応している。状況に応じ、訪問診療、訪問歯科、訪問マッサージなど受け入れたり、様々な社会資源を紹介している。今後も本人、家族の意見をを入れて情報収集に努めていくつもりである。		
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医療機関からは毎月2回往診がある。本人のかかりつけ医がいる場合は、そこでの受診を支援している。医療機関には本人、家族の希望やホームでの状況が伝えられ、診療内容や治療方針についてはホーム側に教えてもらえる関係づくりがなされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化しそうな場合、早めに、家族と連絡を取り合い、医師、スタッフ同席のもとに全員で考え、方針を共有していけるようにしている。看取りは現実やっていないが、希望あれば出来るだけの対応は行う方針である。全入居者についての方針を家族や関係者で確認できると、さらに良いと思われる。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
は					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の保管には注意している。また、人格を損ねたり、誇りを傷つけるような言動にも注意をしているが、トイレがカーテンで仕切ようになっており、その開閉には注意が必要だと思われる。	○	プライバシーの確保については、ホーム全体で取り組みを強化の方向である。全職員での確認の徹底が望まれる。
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム全体の決まりごととはするが、できるだけ一人ひとりのリズム、ペースを尊重しながら生活を支援している。まさにホームの理念である「一人ひとりに合った生活の場」を提供しようと職員全体で取組んでいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの好みや状況を把握し、栄養面に気をつけながら、楽しんでもらえるようなメニュー作りを職員が交代で作成している。食事の準備、かたづけ、食器ふきなどを入居者に手伝ってもらっている。職員は食事介助に追われがちだが、同じテーブルで食事ができるようになると、さらに良いと思われる。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は週2回が基本だが、身体状況や希望に応じて、随時、入浴支援をしている。入浴のタイミングや温度は一人ひとりに合わせている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	張り合いや、変化のある暮らしのために、食器ふき・洗濯ものたたみ・ジャガイモの皮むきなどの役割を担って貰ったり、カラオケ・囲碁・将棋などの楽しみ、散歩・戸外でのお茶などの気晴らしを支援している。今後は介護度の重い入居者に対する支援を工夫して進めると、なお良いと思われる。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩、買物、外食会をしたり、天気の良い日は外にテーブルを出して食事をしたり、おやつを食べに個別に外出支援などしているが、人員的に厳しい面がある。	○	外出支援は大きな楽しみ、気晴らしである。出来る限り、一人ひとりの希望にそった支援ができるような工夫が期待される。
menn					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	以前は日中も安全のために玄関に鍵をかけていたが、センサーの設置や職員の見守りなどで、順次鍵をかける時間を減らし、今は日中は施錠をしていない。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	ホームの職員会議を利用して『防災訓練』を行った。緊急連絡網もできている。今後はマニュアル、役割分担を整備して、地域とも連携しながら、訓練を重ねるとさらによいと思われる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	( 印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の内容や摂取量は介護記録に記入している。月1, 2回管理栄養士から、献立・摂取量・体重などのチェック、指導を受けている。水分は食事のほか、10時、15時にも補給するようにしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は季節が感じられる絵画や草花を飾り、写真も貼ってある。全体的に明るく、楽しい雰囲気づくりがなされている。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人、家族の希望を受け、なじみの物や家具など持込自由としている。居室は居心地良く、入居者が安心できる空間となっている。		